

「それを我に持ちきたれ」(要旨)
聖書箇所：マタイの福音書14章13~21節

【1】 イエスは舟でそこを去り…

主イエスは、バプテスマのヨハネがガリラヤの領主ヘロデアンテパスに殺されたという知らせを聞いた後、「自分だけで寂しいところに行かれました」(マタイ 14:13)。イエスはご自分のところに救いを求めてやって来る人々の列が途絶えることのない日々を過ごしておられました。そうした働きを一旦区切り、天の父に祈りをささげ、休息を取るために寂しいところに行かれたのでした(マルコ 6:31)。聖書にイエスが「寂しいところ」に出かけて祈りをささげていたことが記されています(参考マルコ 1:35 等)。「寂しいところ」(κλειόμενος)は、普段人が出入りするところのない「荒野」(マタイ 3:1)で「人里離れたところ」(14:15)です。イエスは喧騒から離れて、祈りをささげるのでした。

【2】 イエスの「あわれみ」

群衆は舟に乗ったイエスの後を追うために徒歩でついて行きました。イエスはそうした大勢の群衆をご覧になり、彼らを「深くあわれみ」(σπλαγχνίζομαι)、病人たちを癒されました。

新約聖書の中で「深いあわれみ」が出て来る場面が複数登場します(マタイ 9:36, マルコ 6:34, 路 7:13, 10:33, 15:20)。この「深いあわれみ」はイエスの人々に接する心の動きを表しています。

この時のイエスの群衆に対するあたたかい眼差しは「深いあわれみ」によるものでした。イエスは、人が直面する病や悩みに深くあわれんでくださるお方です。群衆への深いあわれみの眼差しは私たちにも向けられています。

【3】 それを我に持ちきたれ

イエスを追いかけて人里離れた場所までやって来た大勢の群衆。日が傾くにつれて、弟子たちの心配は大きくなり一刻も早く群

衆を解散させるようにとイエスに提言しました。しかしイエスは「あなたがたがあの人たちに食べる物をあげなさい」(マタイ 14:16)と応じました。彼らの手元にあるのは五つのパンと二匹の魚だけ。少年一人分の質素な弁当です。群衆は成人男性だけでも五千人。このような場所で、何を、どのように提供できるというのでしょうか。「ここには五つのパンと二匹の魚しかありません」(マタイ 14:17)。群衆に提供できる食事はなかったという報告です。ところが、イエスは「それを、ここに持ってきなさい」(マタイ 14:18)と云われたのです。弟子たちは考えたでしょう。必要なのは、大量の食べ物を購入できる 200 デナリ以上の大金や一度に多くのパンを提供できる店だと(参照マルコ 6:37)。しかしイエスは、ご自分が弟子たちと共にいる事実に目を留めるよう促されたのでした。

イエスはパンをとり、天の父に感謝の祈りをささげ、座っている人たちに分け与え、魚も同じようにして与えられました。ためらうことなく十分に食べるようにと分け与えると、余ったパン切れで十二のカゴがいっぱいになりました。イエスは、「…しかありません」という僅かなもので大勢の空腹を満たされたのでした。

▷ 「それを我に持ちきたれ」(マタイ14:18・文語訳)という主の招きに応えることができますように。

